

### 3. 都内建築物における近年のダニ相

○佐々木 健・元木 貢  
(アベックス産業株式会社)

現在の建築物、特に特定建築物においては空調機器によって温湿度管理が行われており、ダニ類の繁殖しにくい環境が保たれている。

しかしビル利用者からの、ダニ類によるものと疑われる痒み被害の訴えがなくなることはなく、被害者の訴えにより薬剤散布等の対応を迫られることも多い。

また、伊藤ら(1986)は、商業ビルでは一般家屋に比べてダニ数が極めて少なく、その出現種はチリダニ科が圧倒的に多いと報告している。さらに皮膚炎のある場所では捕食性のダニ類が比較的多く検出されたとしている。

現在についても当時と大きくダニ相が変化しているとは考えにくいですが、近年の商業ビルにおけるダニ相を把握しておくことは、痒み被害の訴えがあった際の顧客への対策の提案にあたり重要と考えられる。

当社ではこれまで「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に基づく、特定建築物の定期的なダニ相検査及び痒み被害時の臨時の検査を行ってきており、今回2005年から2015年までの事務所部分を中心とした検査結果をまとめたので報告する。

なお検査方法は、対象となる室内から電気掃除機を用いて室内塵を採集し、飽和食塩水浮遊法によってダニ類を分離し、同定を行った。